

ダグラス・スティーンランド

ノースウエスト航空社長兼最高経営責任者（CEO）

ダグラス・スティーンランドは 2004 年 10 月、ノースウエスト航空最高経営責任者（CEO）に就任。また、2001 年 4 月よりノースウエスト航空社長の要職にあります。同社社長兼 CEO として、経営目標および長期戦略計画の策定と実施を統括しています。

ダグラス・スティーンランドが CEO 就任前にノースウエスト航空で行ってきた業務は、（スカイチーム加盟航空会社を含む）パートナー航空 16 社とのアライアンス、立法・行政・規制事項を含む政府関連業務、労働協約・団体交渉・社内 7 労組対応を含む労務管理業務、人事、広告・メディア対応・社内コミュニケーションを含む企業・ブランド広報、法務など多岐にわたります。

2001 年の社長就任後 CEO に就任するまでスティーンランドは、ノースウエスト航空の全額出資子会社で、世界第 2 位の太平洋貨物航空輸送会社、ノースウエスト・カーゴ・インクの会長兼 CEO を兼務していました。

スティーンランドのノースウエスト航空における主な業績：

- 1992～1993 年：3 年間の従業員給与改定、銀行債務処理、航空機の発注取り消し、株主の手数料引渡しなど、数十億ドル相当の改革プログラムの実施。
- 1994 年：ノースウエスト航空の新規株式公開。
- 1997 年：航空業界の先例となる、KLM オランダ航空との長期共同事業に関する交渉。
- 1998～1999 年：コンチネンタル航空の株式買収においてデルタ航空より優位に立ち、コンチネンタル航空ーノースウエスト航空間の長期的なアライアンス関係を構築。
- 1998～2000 年：14 日間のパイロット・ストライキを解決。操縦士、客室乗務員、整備士、空港職員など各労組と長期にわたる労働協約づくりに尽力。
- 2001～2004 年：景気の減速と 9・11 事件に対応して、年間 16 億ドル規模の合理化のための 8 つの経費削減プログラムを実行。
- 2002～2003 年：ノースウエスト航空ーデルタ航空ーコンチネンタル航空の 3 社マーケティング提携の交渉。米国最大の航空アライアンスづくりに向け、関係規制当局、労組など関連機関からの認可獲得。

スティーンランドは 1991 年、副社長兼法務顧問代理としてノースウエスト航空入社。1994 年から 1999 年までは上席副社長兼法務顧問、1999 年から 2001 年までは執行副社長兼最高業務執行責任者（COO）を歴任。

1991年のノースウエスト航空入社まで、首都ワシントン D.C.で法律事務所、バーナー・リープファート・バーンハンド・マクファーソン・アンド・ハンド（現・パイパー・ラドニックの一部門）の共同代表を務め、運輸・会社法・通信・保険・行政問題などを担当。この間、米運輸省法務局法務事務官も務める。

スティーランドはカルビン大（歴史・文学士）卒業後、ジョージ・ワシントン大法学部（ナショナル・ロー・センター）にて最高位の法学博士号（J.D.）を取得。ノースウエスト航空のほか、MAIR ホールディングス・インク、ミネソタ・オーケストラ、ガスリー・シアターの取締役・理事も務める。2006年開催の「Super Bowl XL-Detroit 2006」実行委員会のメンバーでもある。夫人との間に2人のこども。

（2004年10月現在）